

第2章 町民活動と都市交流

第1節 自治会活動など

(1) 自治会活動

町内会の活動

戦時中、地域行政の末端の受け皿として機能した町内会・部落会は、戦後、GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）の指示によって廃止された。しかし、当別町ではその地域的枠組みを残し、新たに駐在員制度を設けて、駐在員に町内会長や部落会長の業務を継承させた。1954（昭和29）年にはその地域的枠組みを駐在区とし、駐在区に1名の駐在員を置いた。当初の駐在区は30とし、それぞれの駐在区に町内会または部落会が存在した^{*1}。

^{*1} 駐在区の設定について、詳しくは第2部第4章第2節を参照

駐在区が廃止され、行政区が設置された2002（平成14）年当時、町内会は44であった。2017（平成29）年3月には東蕨岱町内会と蕨岱町町内会が合併して、新たな「蕨岱町」町内会が誕生し、その結果、2023（令和5）年現在、町には43の町内会（自治会）が存在している。その内訳は表1の通りである。

表1 町内会の世帯数（2023年5月）

町内会	世帯数	町内会	世帯数	町内会	世帯数	町内会	世帯数	町内会	世帯数
幸町	35	西町	269	茂平沢	28	川下右岸	42	太美スターライト	200
弥生	80	元町	125	みどり野	136	川下左岸	40	ビトエ	28
旭町	40	緑町	177	青山	7	太美北	257	高岡	38
万代町	28	東町	136	中小屋	59	太美寿	195	獅子内	185
白樺町	80	春日町	275	金沢	71	太美東	154	スウェーデンヒルズ	364
北栄町	376	栄町	190	樺戸町	110	太美中央	220	上当別	16
錦町	56	下川町	60	東裏	77	太美西	200	若葉	151
末広	175	六軒町	243	蕨岱町	57	太美南	233	合計	5,532
美里	128	弁華別	66	対雁	67	当別太	58		

資料：当別町

町内会の活動は多岐にわたり、町情報の回覧、防災研修・訓練、防犯パトロール、交通安全運動、青少年の健全育成、ごみステーションの設置・管理、街路灯の維持・管理、地域の環境美化、レクリエーションなど、行政の役割を補う地域に根ざした活動を担っており、町は町内会の運営を補助する制度を設けている。2002年施行の「町内会運営費補助金交付制度」では、補助の内訳は表2の通りであった。

表2 町内会運営費補助の内訳

積算種別	補助金の基準及び積算等
世帯数割による補助	町内会を構成する世帯数に100円を乗じた額の範囲内
会館や集会所等の運営に対する補助	①電気料、燃料費、上下水道料及びくみ取り料の50%以内 ②集会施設の借地料の100%以内 (総額は20万円を限度)
街路灯の維持に対する補助	電気料金の50%以内(45万円を限度)
街路灯の新設または改良に対する補助	工事費の50%以内(30万円を限度)
ごみステーション整備事業に対する補助	鳥獣による被害やごみの飛散を防止する ①ボックス購入費及びボックス修理のための材料購入費の合算額の50%以内(3万円を限度) ②ネット購入費の50%以内(1枚当たり3000円を限度)

資料：当別町

ほかにも町内会では、町や諸団体からの行事への参加依頼や地域の代表となる人の推薦などの受け皿となっている。人選の依頼には、町から行政推進員や保健推進員、諸団体では当別町民生児童委員協議会の民生委員児童委員、当別町社会福祉協議会の福祉委員、当別町交通安全推進委員会の交通安全実践委員、日本赤十字社の協賛委員などがある。

このように町内会は、地域住民の生活にとって大きな役割を果たしているが、今日、その活動には様々な困難が生じている。すなわち、年々、加入率の低下や高齢化の進展等によって、町内会の運営やイベントの開催、外部からの依頼に対する人選などに苦勞しており、特に世帯数の少ない町内会では負担が大きいとの声もある。

こうした状況を改善するため、町内会の統廃合などを求める声もあるが、現状進展は見られていない。



写真1 民生委員児童委員の委嘱状伝達式(1992年)

町内会と町との関わり—行政推進員制度と地域担当職員制度

2002（平成14）年4月、住民と行政の円滑な情報交換と開かれた町政の推進を図ることを目的に当別町行政推進員条例が制定された。行政区は町内会の区域ごとに設置され、その名称は前掲表1の町内会名と同じであった。行政区には駐在員に代わって1名の行政推進員が置かれたが、行政推進員は町内会の推薦を受け、町長が委嘱した。なお、多くの町内会では、町内会長が行政推進員を兼務している。

行政推進員の職務は、住民と行政の情報交換及び連絡調整、広報等の配布、行政情報の提供などである。また行政推進員の連携を図るため、2002年4月に当別町行政推進員連絡協議会が設立された。

その後、2006（平成18）年4月に行政推進員条例が改正され、行政区は青山、東蕨岱、ビトエ、上当別が、弁華別、蕨岱町、当別太、若葉にそれぞれ統合され、44から40となり、現在に至っている（内訳は表3の通り）。

なお、町では行政推進員と町三役、部長職などが集まる行政推進員会議を年3回程度開催し、行政からの情報提供や地域課題の共有を行う場

表3 行政区の世帯数・人数（2023年4月）

行政区	人数	世帯数	行政区	人数	世帯数	行政区	人数	世帯数
幸町	130	83	弁華別	187	86	当別太	223	93
弥生	317	227	茂平沢	68	37	太美スターライト	568	270
旭町	105	71	みどり野	270	157	高岡	87	37
万代町	127	91	中小屋	145	77	獅子内	624	253
白樺町	297	197	金沢	191	80	スウェーデンヒルズ	846	394
北栄町	987	492	樺戸町	312	171	若葉	481	217
錦町	242	173	東裏	244	102			
末広	553	282	蕨岱町	193	87			
美里	327	158	対雁	180	90			
西町	781	398	川下右岸	101	46			
元町	363	203	川下左岸	139	57			
緑町	545	294	太美北	670	309			
東町	290	157	太美寿	508	275			
春日町	594	331	太美東	411	203			
栄町	499	256	太美中央	764	352			
下川町	170	83	太美西	495	228			
六軒町	603	305	太美南	617	277			

資料：当別町

を設け、行政と地域の連携を図っている。

2009（平成21）年4月には、町と町内会との連携を一層強めることを目的に、地域担当職員制度がスタートした。これは、町内会を六つのグループに分け、それぞれに4人一組の町職員を割り当て、地域と行政のパイプ役を期待したものであった。地域担当職員の業務は、行政の情報や地域に役立つ情報を提供すること、地域に関する情報や課題などについて役場の担当部署と連絡調整を図ることであった。制度開始当初の6グループは表4の通りであった。

表4 地域担当職員担当の6グループ

1	元町	緑町	東町	樺戸町	東裏	中小屋	金沢		
2	白樺町	北栄町	春日町	六軒町	弁華別	青山	茂平沢	みどり野	
3	幸町	弥生	旭町	万代町	栄町	対雁	蔵岱町	東蔵岱	
4	錦町	西町	末広	美里	下川町	川下右岸	川下左岸	若葉	上当別
5	太美北	太美中央	太美西	当別太	ビトエ	獅子内			
6	太美寿	太美東	太美南	太美スター ライト	高岡	スウェーデン ヒルズ			

資料：当別町

当初、地域担当職員は、町内会総会への参加や町内会での問題解決の窓口などパイプ役としての役割を果たしていたが、町内会長が直接役場の担当課とつながることが多くなっていく中で、地域担当職員の業務の機会も少なくなり、この制度は2019(平成31)年3月に廃止された。



写真2 地域担当職員と町内会長の顔合わせの様子（2009年）

集会施設としての地域会館

地域住民の活動にとって大きな意味を持つものが集会施設であった。地域における交流、高齢者・女性・子どもなどの組織の育成、地域のサークル活動などの拠点として、また、選挙における投票所、町主催の行事や各種説明会の会場等にも利用されている。

集会施設は、町によって建設されたものもあるが、地域住民が声を上げ、町の助成金や、住民の負担等によって建設されたものも多い。住民の手によって建てられた施設は、増改築、新築移転等を経た後、多くの

施設が町に移管されている。

地区の例をいくつか挙げると、獅子内地区では1968（昭和43）年10月、会館建設の気運が高まり、町からの助成金、財産売却、各戸負担の資金で部落会館を新設した（『獅子内』）。その後、1991（平成3）年9月に、町によって獅子内地域会館として新築され、今日に至っている。

東裏地区では、1960（昭和35）年に旧東裏小学校の一部を移転して、部落会館が開設された。その後、1967（昭和42）年に稲作改善対策特別事業費や町からの助成を受け、新築移転した。1979（昭和54）年には町に働きかけ、教育委員会の分館となり、増改築され、名称も東裏地域会館と変更された（『ふるさと百年』）。2003（平成15）年には、町の財政課に移管された。

材木沢地区では、1927（昭和2）年に住民有志によって部落会館が新築された。その後、老朽化が進み、1972（昭和47）年に町からの助成、農協や住民からの寄附によって新築移転し、1986（昭和61）年には町有に移管された。1988（昭和63）年に「材木沢部落会」の名称を「若葉町内会」に変更し、1990（平成2）年には、新たに若葉町会館が建設された（『ざいもくざわ』）。



写真3 獅子内地域会館の新築祝賀会（1991年）

2023（令和5）年現在、町有の地域集会施設として活用されているのは27会館で、その所在地、延床面積、建設年、経過年は次頁表5の通りである。各会館の耐用年数はすべて22年とされている。そのため現在、金沢会館、東蔵岱会館以外はすべて耐用年数を超えて老朽化が進んでおり、町では施設の改修や修繕を行っている。

表5 地域会館

会館名	所在地	延床面積	建築年	経過年	会館名	所在地	延床面積	建築年	経過年
上当別会館	若葉	71㎡	1963	60	獅子内会館	獅子内	194㎡	1991	32
南部地域会館	蕨岱	220㎡	1978	45	末広会館	末広	212㎡	1991	32
幸町会館	幸町	101㎡	1980	43	スターライト会館	太美スターライト	195㎡	1991	32
百年会館	元町	207㎡	1980	43	対雁会館	対雁	132㎡	1991	32
栄町会館	栄町	132㎡	1983	40	樺戸会館	樺戸町	264㎡	1992	31
川下会館	川下	155㎡	1984	39	みどり野会館	茂平沢	177㎡	1993	30
高岡会館	高岡	117㎡	1985	38	東裏地域会館	東裏	244㎡	1994	29
六軒町会館	六軒町	156㎡	1986	37	西町会館	西町	198㎡	1995	28
中小屋会館	中小屋	161㎡	1987	36	春日町会館	春日町	226㎡	1997	26
当別太会館	当別太	156㎡	1988	35	青山会館	青山	56㎡	1998	25
弁華別会館	弁華別	156㎡	1988	35	森の道会館	緑町	235㎡	1998	25
茂平沢会館	茂平沢	153㎡	1989	34	金沢会館	金沢	226㎡	2004	19
北栄町会館	北栄町	211㎡	1989	34	東蕨岱会館	蕨岱	128㎡	2006	17
若葉町会館	若葉	166㎡	1990	33					

資料：当別町「当別町公共施設等総合管理計画」（平成28年） ※経過年は2023年現在

(2) その他の活動

当別町商工会の活動

当別町商工会は1952（昭和27）年に発足し、1956（昭和31）年に太美商工会と合併して、当別商工会となった。1960（昭和35）年に「商工会の組織等に関する法律」の施行に伴い、同年12月に当別町商工会が創立され、現在に至っている（具体的な活動については、第6章第3節を参照）。

当別ライオンズクラブの活動

町民によって組織され、社会奉仕活動を通じて、住民生活に大きな役割を果たしている団体にライオンズクラブとロータリークラブがある。ライオンズクラブは、1917（大正6）年にアメリカのシカゴ市で、ロータリークラブの元会員メルビン・ジョーンズが提唱して結成された国際的な社会奉仕団体である。「ライオンズ」の名称は、スローガンとして掲げる、「Liberty, Intelligence, Our Nation's Safety（自由を守り、知性を重んじ、われわれの国の安全をはかる）」の頭文字「L・I・O・N・S」を

取ったものである。

クラブの運営は会費によるが、奉仕活動の費用は、チャリティーイベントの収益や寄附金、会員の拠出金などによってまかなわれた。ライオンズクラブはクラブ全体として奉仕活動に取り組むという、「We Serve (われわれは奉仕する)」の標語を掲げている。

町内では、1962（昭和37）年8月に会員22名で当別ライオンズクラブが設立され、翌年5月に当別高等学校でチャーターナイト（国際協会の一員としての認証伝達式）が開催された。日本で456番目、北海道で55番目の設立であった（『当別ライオンズクラブ C.N.50周年記念誌』）。

その社会奉仕活動は、交通安全運動、献血運動、青少年の健全育成活動、赤い羽根・歳末助け合い、古切手や書き損じハガキの供出、災害義援金の募集・送付、ボーイスカウトや各種スポーツ大会への支援、町内公園の植樹、幼稚園・小中学校への各種物品の寄贈など広範にわたった。

こうした活動に対して、クラブの40周年記念式典に臨んだ当時の泉亭俊彦町長は、町にとって「大変心強いもの」で、今後とも、「美しいまち当別」のまちづくりのために尽力を賜りたいと述べている（『当別ラ

イオンズクラブ C.N.40周年記念誌』）。

なお、クラブ結成50周年に当たる2012（平成24）年の活動では、主なものとして、8月に伊達ライオンズクラブとの姉妹締結調印式、9月にライオンズの森整備と北海道盲導犬協会「ミーナ」の募金活動、10月に50周年記念式典、11月に50周年記念事業として映画「大地の侍」の上映会を行った。



写真4 伊達邸別館で行われた当別ライオンズクラブと伊達ライオンズクラブの姉妹クラブ締結の調印式

当別ロータリークラブの活動

ロータリークラブはライオンズクラブより早く、1905（明治38）年にアメリカのシカゴ市で結成された。職業や事業従事者としての責任ある立場を踏まえ、会員相互の親睦と社会奉仕活動を推進する国際団体である。職業倫理の高揚を図り、各自の職業を通して如何に社会に奉仕するか（I Serve・私は奉仕する）を活動理念としている。会員は地域の各業種において代表的地位にある者とされ、既存会員の推薦により、クラ

ブ理事会の審議、承認を経て入会が認められる。活動資金は、会員や支援者の寄附によってまかなわれている。その活動は、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕の部門において、広範に推進されている。

日本では、1921（大正10）年4月に東京ロータリークラブが設立されたのが最初である。当別町では東日本学園大学（薬学部）が創設され、札幌市の隣接地としての発展が期待される状況となったことを受け、1975（昭和50）年10月ころから、札幌北ロータリークラブにおいて当別町にロータリークラブを設立しようとの声が上がりはじめた。1976（昭和51）年4月、スポンサークラブとなる札幌北ロータリークラブの協力を得て、第1回例会を兼ねた創立総会が開かれ、ここに当別ロータリークラブが22名のチャーターメンバー（創立会員）を以て設立された。同年10月、国際ロータリークラブからの加盟認証を受け、当別小学校体育館において認証伝達式が行われた（『創立5周年記念誌 5年のあゆみ』当別ロータリークラブ）。

クラブは町内においても幅広く奉仕活動を行ったが、特筆すべきは、岩出山ロータリークラブとの姉妹クラブ締結、ロータリークラブ奨学金制度の創設、社会福祉号の寄贈、「ロータリーの森」の植樹、記念塔の設置などである。宮城県岩出山町（現・大崎市）の岩出山ロータリークラブとは、当別ロータリークラブ設立5周年の記念行事として、1980（昭和55）年6月に姉妹クラブ締結をし、当別町で調印式を行った。奨学金制度は、ロータリークラブからの申し出により、1982（昭和57）年に発足したもので、高校就学生徒を対象にした。その後、2017（平成29）年10月に、制度が変更され、ロータリークラブのほか、町や当別ライオンズクラブも加わり、「当別町高校生等奨学金制度」として、三者による運営協議会によって運用されることとなった。

社会福祉号は、1996（平成8）年6月にクラブが町に寄贈した自動車で、町は「ロータリー福祉号」と名付け、その後長く高齢者の在宅サービスなどに有効活用した。植樹は、1991（平成3）年6月に、創立15周年記念事業の一環として、旧池



写真5 寄贈されたロータリー号

田病院跡地の町公園予定地で行われ、「ロータリーの森」と名付けられた。記念塔は、2001(平成13)年6月に創立25周年記念事業の一環として、白樺緑地に建立された。高さ6mで、頂上部にフクロウが据えられた。

また、2017年には創立40周年記念行事として、元横綱大乃国の芝田山親方を招き、6月に総合福祉センター「ゆとろ」で講演会を開催している。

札幌北法人会当別支部の活動

法人会は「健全な経営・正しい納税・社会貢献」をテーマに活動を進める、主として企業が参加する組織である。戦後の1947(昭和22)年4月、法人税はそれまでの賦課課税制度から、申告納税制度へと移行した。申告納税制度の定着には納税者自身が団体を結成し、その活動を通じて帳簿の整備、税知識の普及などを図る必要性が生じて、結成された団体である。1946(昭和21)年に、全国初の法人会「石巻法人会(当時は「石巻法人協会」)」が誕生、その後、1954(昭和29)年に全国法人会総連合(全法連)が設立された。会員企業は全国で75万社となっている(全法連HP)。

当別法人会は1964(昭和39)年に設立された。その後、1977(昭和52)年に社団法人札幌北法人会が設立されるのに伴い、当別法人会は解散し、その当別支部として再スタートした。会員数の推移をみると、当別法人会時代の1976(昭和51)年は77であったが、1980(昭和55)年に111、1990(平成2)年に195、2000(平成12)年に183、2010(平成22)年に150、2020(令和2)年に125となっている。

地域社会への貢献活動としては、2004(平成16)年度以降、毎年、

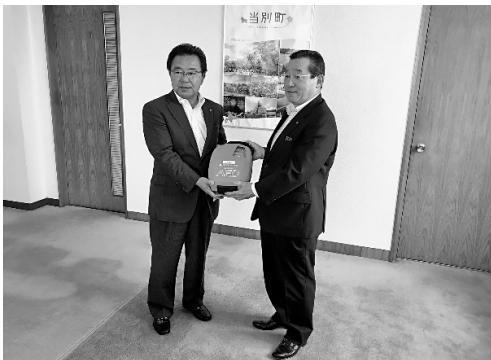


写真6 後藤正洋町長にAEDを寄贈する宮永雅己・札幌北法人会当別支部長

当別町にAED(自動体外式除細動器)や血圧計、チャイルドシートなどを寄贈している。特に2013(平成25)年には、創立50周年記念事業として車椅子補助装置(緊急時などに車椅子を牽引する器具)5台、自動血圧計1台を、2018(平成30)年には創立55周年記念事業として、AED3台、チャイルドシート5台を寄贈した。寄贈品は町内の小中学校、コミュニティセンターなど公共の施設に設置・利用されている。

第2節 都市交流

(1) 国内交流

岩出山町（現・大崎市）との姉妹都市提携

旧岩出山町は宮城県の内陸部に位置し、伊達氏の城下町として栄えた歴史と伝統のある町である。2006（平成18）年3月31日、古川市、松山町、三本木町、鹿島台町、岩出山町、鳴子町、田尻町の1市6町が合併し、大崎市となった。町の中心商店街は、当時の商人町をイメージした町並みが整備されている。また「有備館」という17世紀の学問所や回遊式池泉庭園が残っている。地元のしの竹を使った竹細工が特産品として知られている。また大崎市には、大崎平野の恵みを受けた米や日本酒、鳴子こけしなどの特産品がある。岩出山は伊達政宗が青春時代を過ごした地であり、それを記念して武者行列が町内を練り歩く「政宗公まつり」が、例年9月に開催されている。大崎市の人口は12万4776人（2023年4月現在）。

2000（平成12）年は、伊達邦直主従が当別に入って開拓の鋤を下ろした1871（明治4）年から数えて130年目に当たる。これを機に、それまで友好関係を保ってきた宮城県岩出山町と姉妹都市の盟約を結ぶこととなった。2000年10月12日、当別町総合体育館において、130年記念式典の一環として、伊達寿之町長と佐藤仁一岩出山町長が立ち会い、姉妹都市提携の調印式が行われた。

この姉妹都市提携を記念して、岩出山町の「有備館の森公園」内に、両町が共同で「越鳥南枝」（中国南方の越の国から渡ってきた鳥は、ふるさとを思い、南に延びる枝に巣を作るという意味）という「移住者の望郷の念」を表す文字を刻んだ記念碑を建立し、12月に除幕式が行われた。

その後、1市6町が合併し、新たに大崎市が誕生したが、各市町がそれまで締結していた都市間協定は大崎市が引き継いだため、以後、当別町は大崎市と姉妹都市交流を続けていくこととなった。



写真7 スコーレチャレンジ事業で来町した岩出山町児童たち（1992年）

*2 当別町の大崎市に対する支援については、第3部第8章第1節を参照

2011（平成23）年3月11日、東日本大震災が発生し、大崎市も大きな被害を受けた。当別町は大崎市に対する支援・協力を行った^{*2}が、当別町以外にも全国の自治体から支援があった。同年11月3日、宮城県大崎市民会館で大崎市震災復興大会が開かれ、その席上、大崎市は支援に関わった当別町や愛媛県宇和島市など、全国の8市町と災害時相互応援協定を締結した。また同日、当別町は姉妹都市の宇和島市と災害時相互応援協定を締結した。



写真8 大崎市の特産品

JR当別駅前のふれあい倉庫では、通年大崎市の特産品を販売している。また例年姉妹都市フェアを開催しており、大崎フェアでは岩出山名物の「もみの木かりんとう」「岩出山なっとう」などを販売している。「北欧の風 道の駅とうべつ」でも、大崎市の地酒をはじめ特産品を常時販売している。

宇和島市との姉妹都市提携

*3 牛鬼は5～6mの牛をかたどった竹組みの胴体に、丸木で作られた長い首と恐ろしい鬼面の頭、剣をかたどった尻尾がついており、全身はシュロの毛または赤色の布で覆われている。伝説上の妖怪とされるが、その起源は明らかではない

宇和島市は愛媛県の西南部に位置し、西は宇和海に面している。2005（平成17）年8月1日、宇和島市、吉田町、三間町、津島町が合併し、新しい宇和島市が誕生した。宇和海には入り江と半島が複雑に交錯した典型的なリアス式海岸が続き、四つの有人島と多くの無人島がある。みかんや伊予柑などの柑橘類、真珠養殖、鯛をはじめとする魚介類の養殖、じゃこ天・かまぼこなど多くの特産品がある。毎年7月には「和霊大祭・うわじま牛鬼まつり」^{*3}が開催され、南予各地から集結した牛鬼



写真9 当別町と宇和島市の姉妹都市盟約を締結した時の様子。左から石橋宇和島市長、伊藤大崎市長、泉亭当別町長

が練り歩く「牛鬼パレード」は壮観である。人口は4万6354人（2023年4月現在）。

宇和島市は大坂冬の陣の参陣の功により、伊達政宗が徳川家康から賜った領地であり、政宗の長男伊達秀宗が初代藩主となった。この縁で1999（平成11）年、宇和島市と宮城県岩出山町が姉妹都市の提携をした。また当別町は前述のように、2000（平成12）年に岩出山町と

姉妹都市提携をしている。2009（平成21）年、当別町と宇和島市の姉妹都市の盟約が締結されたが、その経緯は次のようなものであった。

岩出山町では大崎市となる合併の前に、閉町記念式典が開催され、当別町、宇和島市から首長が参会した。そこで伊達家に縁がある3市町長は、伊達家の学問所であった旧有備館にて、交流の輪を広げるべく、「友好交流の証」に署名した。



写真10 宇和島市の特産品

その後、3市町は友好都市として交流を続け、2009年に泉亭俊彦町長が大崎市を訪問した際に、市長に宇和島市との姉妹都市提携の仲立ちを依頼し、市長の快諾を得て実現した（『北海道新聞』平成21年6月24日付）。同年7月5日、大崎市岩出山地区の旧有備館にて、伊藤康志大崎市長が立ち会い、泉亭町長と石橋寛久宇和島市長との間で、姉妹都市盟約が調印された。

ふれあい倉庫や「北欧の風 道の駅とうべつ」では、通年宇和島市の特産品を販売しているほか、例年宇和島フェアを開催し、特産品を販売している。

伊達市との歴史兄弟都市盟約の締結

北海道伊達市は北西は有珠山や昭和新山、南は噴火湾（内浦湾）に面している。2006（平成18）年3月1日、大滝村（現在の大滝区）と飛び地合併し、新たな伊達市としてスタートした。知的障がいのある人たちが、一般の市民と同じようにまちの中で生活・活動する「ノーマライゼーション」をいち早く実践していることでも知られている。種類豊富な「伊達野菜」の産地であり、ホタテ養殖も盛んである。人口は3万2103人（2023年4月現在）。

2018（平成30）年は明治改元から150年目に当たり、政府は「明治150年」を記念する行事を行った。記念事業の開催



写真11 当別町と伊達市が歴史兄弟都市盟約の締結をした時の様子

に向け、政府は各自治体に、明治期を振り返り、関連する多様な取り組みを行うよう求めた。

当別町は、2020（令和2）年が、伊達邦直主従の当別入植後150年目に当たることから、「当別町150年記念事業」を企画していた（コロナ禍で最終的に中止となった）。また、伊達市も伊達藩亙理家の伊達邦成主従が有珠に入植してから、2019（令和元）年が150年目となっていた。邦直と邦成は実の兄弟で、岩出山家当主伊達義監を父に持ち、兄の邦直は岩出山家を継ぎ、弟の邦成は亙理家の養子に入り同家を継いでいた。両者はともに、戊辰戦争敗北後の維新政府による処分によって、家臣団維持の危機に瀕し、その解決策として北海道開拓を選んだという共通点を持っていた。

こうした歴史的共通点を持った両市町は、明治150年記念事業に伴って政府が示した方針を受け、2020年10月9日に町内の伊達邸別館において、宮司正毅町長、菊谷秀吉伊達市長、後藤正洋町議会議長、小久保重孝伊達市議会議長が立ち会い、歴史兄弟都市盟約を締結した。盟約締結に当たり、宮司町長は邦直・邦成公兄弟のように「伊達市、当別町は互いを案じ、協力し、未来に向けて友好と親善を一層深めましょう」と述べ、菊谷市長は末永く交流を進めていくため、子どもの交流や経済・文化の交流を深め、「未来に向かって手を携えていきたい」と述べ、将来にわたる連携を約束し合った。

伊達市の特産品の通年販売が「北欧の風 道の駅とうべつ」で行われている。

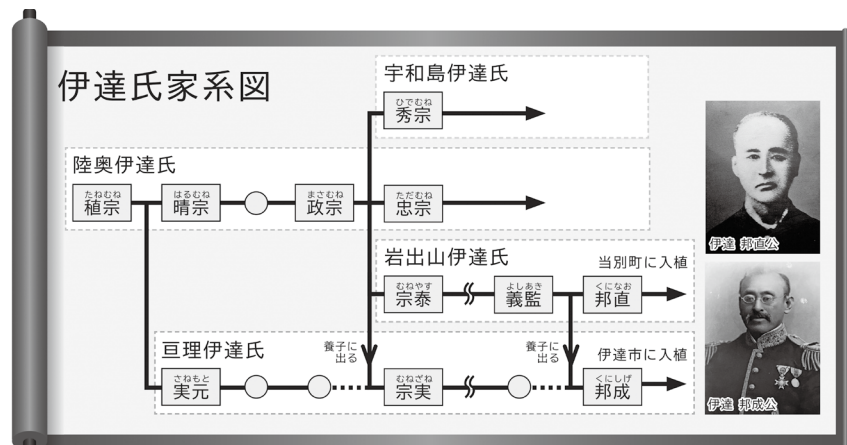


写真12 伊達氏の家系図

(2) 国際交流

レクサンド市との姉妹提携

当別町は、1987（昭和62）年10月に、スウェーデン王国のレクサンド市と姉妹都市提携を結んだ。レクサンド市は首都ストックホルム市から北西に約250km離れた場所にあり、人口約1万5500人の都市である。古くからの伝統が色濃く残り、スウェーデンではもっとも盛大に夏至祭が行われている都市である。チー



写真13 レクサンド市の街並み

ズや野菜など様々な具材を乗せて食べるクネッケブロードという堅パンのメーカー（レクサンズクネッケブロード）が所在することでも有名である。

姉妹都市提携先としてレクサンド市が選ばれた背景にあるのは、獅子内地区のスウェーデンヒルズ*⁴である。1983（昭和58）年に建設が開始され、1986（昭和61）年にはスウェーデンヒルズの中心にスウェーデン交流センターが落成した。

その後、レクサンド市との姉妹都市提携の準備が進められ、1987年8月には民間の国際交流団体である当別・レクサンド都市交流協会が設立された。こうしてレクサンド市との姉妹都市提携の機運が高まる中、同年10月5日、配野町長を団長とする使節団がレクサンド市を訪問し、姉妹都市の盟約に調印した。

姉妹都市提携以降、両市町は締結周年記念事業として1997（平成9）年から5年ごとに相互訪問を行い、当別町の120年、130年、140年の周年記念事業には、レクサンド市から使節団が来町した（次頁表6）。また、夏至祭も第1回（1984年）の後、現在まで毎年開催され、マイストングの立ち上げやフォークダンス、コンサートなどがスウェーデン交流

*4 スウェーデンヒルズについて、詳しくは第3部第5章第1節を参照

センターなどを会場に行われ、毎年数千人が参加する一大イベントとなっている。

35周年の2022（令和4）年は新型コロナウイルス感染症拡大のため、訪問は行われなかったが、同年4月にレクサンド市で開催された日本映画祭にオンラインで参加し、後藤正洋町長のビデオメッセージのほか、当別中学校の吹奏楽部OBによる演奏が行われた。

表6 レクサンド市との主な訪問交流

1997年9月	配野定平町長ら36人がレクサンド市を訪問。
2002年8月	泉亭俊彦町長ら13人がレクサンド市を訪問。
2007年6月	レクサンド市から74人の訪問団が来町。
2012年9月	泉亭俊彦町長ら72人がレクサンド市を訪問。
2017年10月	レクサンド市から60人の訪問団が来町。

5年ごとの相互訪問とは別に、1990（平成2）年3月、第10回旭川国際バーサー大会（バーサーロペット・ジャパン）参加のために来日したスウェーデン王国のカール16世グスタフ国王が来町し、スウェーデン交流センターを視察した。同年9月、当別町の120年記念式典には、レクサンド市の市長代理が参加した。また国王の来町を記念して、JR石狩太美駅がスウェーデン風建物に改修され（11月に完成）、太美駅からスウェーデンヒルズに向かう道路がスウェーデン大通と名付けられ、整備された。



写真14 レクサンド市の夏至祭の様子

2000（平成12）年10月に開催された当別町の130年記念式典には、レクサンド市から市長ら26人の訪問団（経済交流団11人、青少年交流団15人）が出席し、友好を深めた。同じく2010（平成22）年10月に行われた140年記念式典は、レクサンド市から11人の訪問団が来町し、式典に参加したほか、姉妹都市として来町した宮城県大崎市、愛媛県宇和島市の人々とともに、民族衣装でパレードを行った。

なお、2006（平成18）年には、パン窯設置のためにレクサンド市長とともにレンガ職人の棟梁が来町し、翌年の姉妹提携20周年を記念し、友好の証としてふれあい倉庫にスウェーデン式レンガ造りのパン窯を設置した。このパン窯は2025（令和7）年に至るまで、イベント時などにはフォカッチャなどを焼くのに活用されている。

〈引用・参考文献〉

- 獅子内部落史編纂委員会『獅子内』（1983年）
- 東裏開基百年記念事業協賛会『ふるさと百年』（1984年）
- 材木沢開基110年記念事業協賛会『ざいもくざわ』（1992年）
- 『当別ライオンズクラブ C.N.40周年記念誌』（2002年）
- 『当別ライオンズクラブ C.N.50周年記念誌』（2012年）
- 『創立5周年記念誌 5年のあゆみ』（当別ロータリークラブ、1980年）
- 『当別町・レクサンド市姉妹提携30周年記念誌』（2017年）